

営農組織の概要

- ・所在地:千葉県山武郡九十九里町
- ・組織名: JA山武郡市第一集出荷センター施設部会
- ・栽培作物・作付延べ面積: キュウリ 10.6ha(促成、半促成、夏、抑制)、ナス 8.4ha(促成、半促成、抑制)、トマト 6.9ha(半促成、抑制)
- ・部会員数: 74名(令和5年7月現在)

導入技術

- ・環境測定機器(温度、湿度、CO₂濃度等)((株)セラク製)
- ・炭酸ガス施用機((株)ネポン製)
- ・循環扇((株)ネポン製・(株)山本産業製)



写真1 施設環境の見える化

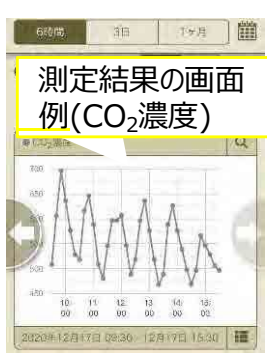


写真2 現地コンサルティングの様子

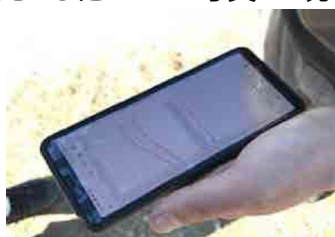


写真3 出荷量入力の様子

導入経緯

- 平成26年以降、山武管内では収量増加を目的に炭酸ガス発生装置や環境モニタリング装置を活用した環境制御技術に取り組む農家が増えた。平成27年には、大網白里市内の有志5名がスタディクラブを結成し、地区の平均を大きく上回る30t/10aを目標収量として勉強を重ねてきた。
- 令和元年、スタディクラブ全員が更なる収量アップを目指したいとの熱い思いから、千葉県園芸協会・JA山武郡市・山武農業事務所と連携し、「技術コンサルティング事業」の活用により環境制御技術の向上に取り組んだ。

取組の特徴・効果

- スタディクラブでは生育状況を確認するほ場巡回、先進地視察、各種セミナー参加など積極的に情報収集を行った。
- 令和元年、千葉県園芸協会の「技術コンサルティング事業」を活用し、環境制御技術の専門家の指導を受けた。各自ハウスの「かん水量」「積算日射量」「炭酸ガス施用のための燃油使用量」などを把握し、具体的な数値を基にした管理へ変更した。
- 普及指導員や農協営農担当者もスタディクラブのメンバーと共に課題解決に必要なデータ集計や意見交換を行った。
- 令和元年度の実績は、台風など災害の影響があり、増収目標を達成できなかったが、これまで気付かなかった技術的な課題をスタディクラブで共有することができた。
- 具体的な数値を基にした議論が行われるようになり、環境制御技術に取り組む前に比べると、かん水量や追肥量を増やすなど、管理方法が大きく変わった。
- 今後も栽培の始めに目標を決め、各自の課題を明確にして、最適な栽培方法を実践し、増収につなげる。